

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び 評価結果(年度評価)

令和8年3月

静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県舞台芸術公園 公益財団法人静岡県舞台芸術センター

2 指定期間

令和4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和6年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和8年1月13日)

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ 代表
小島 孝仁	株式会社CSA 不動産 代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授
山本 雅弘	株式会社東平商会代表取締役

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

令和6年度実績は、評価点「4.4」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1.0～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～5.0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- 指定管理業務は適切に行われている。施設の品質の維持・向上や、地域や社会との連携促進（×α）などを進め、引き続き、静岡発の個性的な公園としての価値向上に前向きに取り組んでいただきたい。「静岡県舞台芸術公園」はネーミングが長くかたいイメージがあり、利用者が覚えにくくロコミに乗りにくい感じがする。覚えやすく、発音しやすく、個性的な「愛称」がこの公園にあったらよいかもしれない。
- 厳しい予算の中で、静岡県の文化資産を維持し新たな企画、イベントを実施し来園者によるこぼれているのは素晴らしいと思う。スタッフだけでなく、外部（指定管理評価委員など）との意見交換を行う方が良いと思う。
- 他分野との連携を積極的に行うべきと思う。アーティストや職人は良いものを創ることに集中するが、その先に利益を生む必要がある。活動を継続するためにしっかりしたマネタイズが必要である。
- 公園と舞台芸術をセットにして管理・運営する県の文化政策は特徴的で他にはないからこそ、地域に根差した取り組みの充実も継続することを期待する。改修閉館が相次ぐタイミングに、これまでの事業の精査、開発も必要なのではないか。
- SPACを知らない県民にも興味を持ってもらえるようなイベントの実施などにより、周知を図る必要があるのではないか。SPACを知ってもらい、演劇のファンを増やす取組を強化し、そこから当施設への興味を持つ層を広げてほしい。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県舞台芸術センターは、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 概要（提案項目別評価）

(ア) 効果的・効率的な管理

a 再委託業務経費の軽減化

・入札による競争性の確保及び複数年契約の導入と、効率的な園地管理の実施により、委託費の抑制につなげている。

b 施設の利便性・快適性の向上とPR

・SNSでは催事情報や舞台芸術公園の日常的な様子を掲載するほか、様々な機能を用いて新鮮な情報発信に努めており、多様なPRを積極的に行なっている。
・演劇ミニミュージアムの整備、公園のパンフレットや園地内の看板のリニューアルなど、新しい公園の魅力の創造と発信にも努めているほか、来園者が無料で利用できる音声ガイドシステム「おともたび」を実装したことで、県民の来園を促進すると共に、来園者の利用につなげている。

(イ) 公園の特性や課題の認識及び県との協調連携

a 交通の利便性の確保

・利用者が増加する公演時に、関係者と連携して送迎バスの手配や駐車場の確保を行うほか、観劇者用駐車場の確保・誘導により利用者の利便性に配慮するなど、満足度

向上につなげている。

b 県との協調・連携

・静岡ならではの文化資源であるSPACを活用して本県へのインバウンド誘客や消費拡大につなげるため舞台芸術公園へのバックヤードツアーを実施するなど、県施策と連携した事業を進めている。また、県とは日常的に連絡を取り合い、適切な施設管理を行っている。

(ウ)維持管理

a 維持管理計画

・年間計画に基づいた維持管理を着実に行うとともに、自然災害・老朽化による施設設備の突発的な不具合等に対し優先順位を整理しながら適切な予算執行により業務を遂行している。

b 警備・美化清掃

・常駐の委託業者やスタッフと定期的な打ち合わせの場を設けて連絡体制を整え、来園者の安全確保と公園の景観維持につなげている。利用者アンケートでは、全体の満足度が昨年度より、3.7%向上し、「整理整頓」「スタッフの対応」「子どもへの配慮」「高齢者・障害者への配慮」や「管理状態」の5項目で昨年度以上の満足度となっており、利用者の評価につながっている。

c 設備の維持管理

・常駐の委託業者やスタッフとの密な連携構築と、担当者の細やかな管理により、設備の適切な維持管理につなげている。利用者アンケートでは、全8項目中5項目が利用者満足度80%を超えているが、「子どもへの配慮」の項目においては満足度が69.7%と70%を下回ったため、こうした来園者への配慮を期待したい。

(エ)施設の破損や災害等に対する対応

a 施設修繕への対応

・関係者間で施設の維持管理についての重要性を共有し、計画的な対応に努めている。また、突発的な損傷や不具合についても早急に協議を行い、修繕等対応を行った。

b 災害・緊急時等への対応

・予期しない災害等に対応できるよう、専門知識を有する者の知見も取り入れ、計画に基づき適正に対応している。

(オ)職員・常駐業者の能力育成

a 施設の技術的な維持管理

・技術スタッフの研修派遣や園内での研修会などの実施により年間を通じて事故は発生せず、舞台設備等の適切な維持管理が行われていると認められる。

b 園地管理的な維持・管理業務

・職員は、施設利用者等のニーズを随時汲み取り、それを園地管理に適時的確に伝達する連絡・連携体制を構築している。
・常駐事業者は、県の要請を待つばかりではなく、定期点検等の結果に応じ、園地内

の修繕・改良等の実施や提案を適切に行っている。

(カ)施設等の使用団体との調整

a 使用団体との調整

・県民月間での使用団体からの要望に対応できる体制を整え、技術スタッフの配置や観客交通手段の確保等に的確に対応し、県内演劇団体の活動に貢献した。

b 使用団体の要望に対応する体制

・SPACの技術スタッフが舞台芸術公園の施設設備を操作し要望に対応するだけでなく、使用団体のスタッフの希望に応じ技術面での助言をするなど、次世代育成に繋がる対応が評価できる。

(キ)地域との連携

a 地域との連携

・地域のボランティアや高校生と協力して園地の景観を維持しているほか、学校の校外学習への協力や、食と絡めたイベントの開催等、様々な団体との連携が進んだ。

・日本平の存する歴史・文化・観光・宿泊施設など、舞台芸術関係者以外とのさらなる連携が広がり、日本平地域全体の魅力が増すことにより公園の認知度も向上することに期待したい。